



災害に強い子どもたちになってもらいたい

吉川こども防災クラブ



火の用心!



子どもの防災意識を高めたい

東日本大震災に続き熊本の2度の地震による未曾有の被害が深刻な状況にある中、南海トラフ巨大地震への備えが進められています。しかし、避難訓練や防災講演会など、さまざまな取り組みにもかかわらず、防災意識の確立はまだ十分とは言えない状況にあるのが実情のように思われます。

子どもたちがお互いの命を守るだけでなく、災害時に知識と自分たちのコミュニケーションやネットワークを生かして行動できるよう、そして防災への発信源となれるよう育てていきたいとの思いで、子ども防災クラブの立ち上げに至ったということです。平成28年度のクラブ員は13人です。

平成28年5月、市内では赤岡町に続き2番目となる「こども防災クラブ」が吉川町に誕生しました。その設立に携わり、子どもたちの指導・サポートにあたってこられた吉川消防団(中元則夫団長)の団員の方々にお話を伺いました。

担当/広報編集委員 井上桂子

まずはアクションを

さまざまな活動を考えるなかで、まずはできることからアクションを起こしていこうと、年末警戒から活動が始まりました。また、保育所や小学校の防災訓練の際にお手伝いをしたり消火訓練を行ったりしてきました。

保護者のほとんどが消防団員であることも子どもたちにとって、親しみを持ちやすく活動しやすいのではないかと考えられ、防火水槽の点検に参加することもあつたことでした。そうした中で少しずつ子どもたちの中に訓練への真剣さが見られるようになってきたといえます。

活動の広がりつつなかりを

理屈でなく行動を通じて活動を展開する先に、地域にできた津波避難タワーの日常的な活用や地域の行事への積極的な参加、さらには全国の子どもたちとの交流、連携を考えているとのことでした。

13人でスタートしたクラブ員を吉川小の全員に参加を呼び掛けると同時に中学生、高校生になつ

ても引き続き活動していけるようにサポートしていきたいとお話でした。

全国の子ども防災クラブの子どもたちとお互いに学びあうことは、子どもたち自身の防災力を確かなものにするだけでなく、大人の防災への意識をも変え、高めることが出来る」と語る消防団の方たちから、子ども防災クラブに寄せる熱い思いが伝わってきました。



▲消火器の使い方からしっかり学びます

編集後記

▼3月22日に4月1日付けの人事異動が発表され、秘書広報係を卒業することとなりました(市役所の組織案内は5月号に掲載予定)。

納品された広報誌を手にするたび、わき起こる発行できたことへの安堵感とうれしさ。そしてその後、気付く校正と校閲の甘さに反省する。言葉の大切さを知ると同時に、活字にして伝えることの難しさを感じながらの6年間でした。

取材を通しての出会いと多くの方に助けられ、経験を積み重ねてこられたことは、何事にも代えがたい財産となりました。ここで学んだことを大切に、今後に生かしてまいりたいと思っております。ありがとうございました。(猪原加江)

《広報へのメール》

kouhou@city.kochi.konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi.konan.lg.jp

マチイロ
スマホで
広報を見よう
「i広報紙」はアプリ名称が「マチイロ」になりました。

